

平成28年度第6回狭山市廃棄物減量等推進審議会

開催日時 平成29年2月16日（木） 午前10時から11時

開催場所 奥富環境センター 4階 会議室

出席者 島寄会長、関根副会長、齊藤委員、谷口委員、吉澤委員、大井川委員
林委員、安永委員、畔上委員、磯部委員、古屋委員、加藤委員、吉浦委員
以上 13名

欠席者 山崎委員、涌井委員

事務局 品川環境経済部長、淵泉資源循環推進課長、吉田稲荷山環境センター所長、
小沢奥富環境センター所長、長峯リサイクルプラザ主幹、小巖収集担当主査
資源循環推進課 小島主幹、森主査、岡主査

傍聴者 なし

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題

- 1) 狭山市一般廃棄物処理基本計画の改定（案）の諮問に対する答申書（案）について
狭山市の適正な廃棄物の処理及び減量・リサイクルの推進や生活排水処理の基本的な方針となる一般廃棄物処理基本計画の改定（案）について前回の審議会で諮問し、会長・事務局による作成一任をいただき、審議会からの答申書（案）について作成したもの。添付の答申書（案）のとおり説明。付帯意見中、PDCAサイクルは、審議会への状況報告や意見をききながら事業を進めます。基本計画の中で全国的な動向との比較として、国（環境省）の公表による一般廃棄物の処理実態調査の結果を検証できる支援ツールを用い、検証の参考にします。

〔質疑応答〕

議長：事務局から説明がありましたが、意見・質問があればお願いします。

委員：検証するのは計画かと思うが、進行管理にあたり「PDCAサイクル」そのものについての検証とも読み取れるが、「PDCAサイクルを活用し」などと変え、あくまで計画見直し的手段としての活用であることに表現したほうが誤解がないと思われます。

事務局：自治体の状況把握のためPDCAサイクルの各過程のチェックするツールとして記載し、誤解を招く表現であれば表現を検討したい。PDCAサイクルを活用するという意味です。

委員：ツールの活用とのことですが、詳細の説明をお願いします。

事務局：本編52～53ページにある、各自治体の廃棄物の実態調査を実施しており、一定の条件を入力しレーダーチャートにより5項目について表現するツールで、

当該団体の状況を類似団体との比較を自動的にできるツールです。

事務局：「PDCAサイクルの実施にあたっては」等の表現も誤解を招きかねない表現と考えられるので、内容表現は異論がなければ事務局・会長・副会長で考えさせていただければと思います。

議長：他に意見等がありますか。

委員：確認ですが、P（プラン：計画）、D（ドゥ：計画の実行）、C（チェック：確認）A（アクション：（改善）行動）を繰り返す国のツールを使い業務（計画）の改善をしていくことでよろしいですね。

事務局：はい、そのとおりです。

議長：他にご意見等がないようであれば、答申書（案）を答申書として市長に提出させていただきます。よろしいでしょうか。

各委員：《異議なし》

議長：それでは答申書（案）の「案」を消していただき、日程調整のうえ後日事務局と市長に提出させていただきます。

2) 平成29年度狭山市一般廃棄物処理実施計画（案）について

法令、条例の規定に基づき、一般廃棄物処理実施計画を定めることになっており、ごみの発生量、処理量の見込み、ごみ減量化・資源化対策、発生抑制のための施策、分別収集したものの適正処理、市民・事業者のごみ資源の排出方法などの実施計画を作成の上、告示し広く市民に知らせることになっている原案の報告。排出量は平成28年の実績値を元に、過去の収集量も考慮の上算出したもの。主な変更点について説明。

議長：何か意見・質問があればお願いします。

委員：P16のリサイクルプラザの活用（1）～（3）について、環境教育の中のリサイクル体験教室・イベントの開催の内容について、記載の講座内容を必ず実施するのか、できない場合はどうなるのか。

事務局：主な内容を示しています。できない場合は他の体験教室などを行ないます。

議長：他に何か意見・質問があればお願いします。

委員：P14のごみの発生抑制の施策で3010運動について、意味がわかりやすいキャッチフレーズ等の別な啓発活動により広く市民一般に浸透できるのではないかと提案です。

事務局：広報の8月10日号に特集記事を掲載しました。また小学校などの出前教室の時にPRしています。年末には廃棄物減量等推進員の協力を得て、駅頭でPRチラシの入ったポケットティッシュを配布しました。家庭の他に宴会時での運動も含まれますので、結婚式場等の大型宴会施設にもPRを行ないました。今後も情報を発信していきますので、ご協力いただける場面があれば協力いただきたい。

議長：他に何か意見・質問があればお願いします。

委員：P15のリサイクルの推進の中で、集団回収の補助額減による団体側のモチベーション減少にもつながる恐れはある。下げた後に一部復活したとの自治体も聞いたことがあります。「推進」の言葉にもかかわらず、気になる点です。

事務局：補助額については近隣市の状況を考慮した。古紙等の市況取引も近年は高水準で移行している。本来、補助金のあり方は市況下落により逆有償もあるのでその際に補助金を高くし集団回収事業を誘導する考え方がある。一度下げ逆有償にな

る場合は再検討させていただきたい。

議長：他に何か意見・質問がありますか。

委員：P 8 のごみ処理手数料について、併せて何か具体的な経費削減策を盛り込んでみたらいかがだろうか。

事務局：現在具体的な経費節減施策は今現在ない状況です。ごみ処理に関する経費は年間約 20 億近くかかっており、4 月からはびん缶の収集サイクルの見直しによる収集体制の効率化を計り（200 万前後の軽減予測）、少しずつではあるが削減させ、ごみ処理経費に反映させたい。

委員：スーパーによる民間拠点回収は P 2～6 あたりには含まれる（把握している）か否か。あるいは別枠として把握しているか。

事務局：この掲載の収集量は市の施設・委託事業所に入ってくるものなので、民間収集による自家処理分は把握するすべがなく現れてはこない。市のごみ処理の責務をしている以上把握すべきだが、すべては把握できてない状況にある。

委員：P 10 の蛍光管等の排出先の北見市「留辺蕊町」の読みは。

委員：「るべしべちょう」です。

議長：他に何か意見・質問がありますか。

委員：新聞・ペットボトルリサイクルなど民間収集も増え、減少傾向と聞くが海外（ドイツ）などでは製造者に回収義務がある。どこかではリサイクルされていると思うが、市の収集量が下がるのであれば委託料が下がるものはあるか。

事務局：古紙・古布は回収場所（ルート）が減らないのでドライバーの確保等あり難しい。ペットボトルは容器包装リサイクル法に基づき、中間処理施設での圧縮梱包一時保管した上でリサイクル協会の排出に応じて処理経費削減できる。収集品目によります。

委員：P 5～6 の排出禁止物とその処理方法における処理方法で、市民の認識は少ないと思われるので、問合せがあった時などは紹介していますか。

事務局：現在問合せがあった段階で紹介しています。

議長：他に何か意見・質問がありますか。

議長：他に意見・質問がないようであれば、平成 29 年度の実施計画につきまして事務局（案）を進めてよろしいでしょうか。

各委員：《異議なし》

4 その他

1) 次年度の審議会の開催については、5～6月の開催予定。詳細は改めて通知します。

5 閉会

提出資料

- ・平成 28 年度第 6 回狭山市廃棄物減量等推進審議会 次第
- ・（答申書）狭山市一般廃棄物処理基本計画の改定について（答申）
- ・平成 29 年度狭山市一般廃棄物処理実施計画（案）